

## IV. 資 料

## IV. 資料

### 1. 受講修了者 グループリーダー 一覧

平成23年度 厚生労働省 先駆の保健活動交流推進事業 保健師活動強化コンサルテーション事業 「中堅期保健師コンサルテーションプログラム(産業分野)」受講終了者一覧		
氏名	所属	
秋田 朋香	北海道農業団体 健康保険組合 健康推進部 保健指導課	
浅川 美知子	全国健康保険協会 山梨支部 保健グループ	
有本 幸代	姫路市役所 研修厚生センター	
飯田 百合子	株式会社 ソニー・コンピュータエンタテインメント 健康支援室	
石田 千春	株式会社 西日本シティ銀行 人事部厚生グループ 健康管理室	
市丸 麻衣子	三菱重工業 株式会社 名古屋航空システム製作所 飛島健康管理室	
犬飼 富由子	NTT東日本長野病院 健康管理センタ	
猪亦 依美	財団法人 神奈川県予防医学協会 健康創造室 相談課	
岩本 桂子	株式会社鳥取銀行 鳥取銀行健康保険組合	
風間 昌美	滋賀県庁 総務部 人事課 福利厚生室	
加藤 京子	財団法人 東京都予防医学協会 健康増進部	
川島 志保	北陸銀行 経営管理部(北陸銀行健康保険組合)	
菊池 由美子	日新火災海上保険 株式会社 健康開発センター	
工藤 留美子	財団法人 神奈川県予防医学協会 運営部兼相談課	
國貞 直子	パナソニック株式会社エコソリューションズ社 中国四国総務センター 健康管理室	
小坂 智恵子	パナソニック株式会社エコソリューションズ社 新潟工場 健康管理室	
小林 光恵	警視庁 健康管理本部	
近藤 直子	東海旅客鉄道 株式会社 健康管理センター	
榊原 一恵	株式会社 スターインフォテック	
塩見 美恵子	富士通株式会社 関西システムラボラトリー 関西健康推進センター	
須貝 恵目	渋谷区役所 総務部 職員課	
菅原 美鈴	南葛勤医協 芝病院 健診センター	
須山 有輝子	ワコール健康保険組合 健康開発チーム	
高崎 洋子	横河電機 株式会社 経営管理本部 診療センター診療所 健康支援チーム	
高根 育子	中部電力 株式会社 長野支店 人事課 健康管理室	
高谷 千枝子	財団法人 神奈川県予防医学協会 健康創造室 相談課	
田原 由夏	三菱化学株式会社 黒崎事業所	
田村 陽子	社会保険神戸中央病院 健康管理センター	
堤 梨恵	三井化学株式会社 大阪工場 健康管理室	
寺崎 怜子	パナソニック株式会社ホームアプライアンス社 ランドリー・クリーナービジネスユニット	
内藤 あけみ	ジヤトコ株式会社 総務部	
中井 栄	パナソニック健康保険組合 健康開発センター	
中尾 由美	中尾労働衛生コンサルタント事務所 ワーク&ヘルス	
長澤 孝子	積水化学工業株式会社 滋賀栗東工場 企画管理部	
中田 ゆかり	参天製薬株式会社 滋賀工場 健康支援室	
中村 明子	伊藤忠エネクス 株式会社 人事総務部 人事課 健康管理室	
西ヶ谷 江里	東海旅客鉄道 株式会社 健康管理センター 東京健康管理室	
本田 則子	パナソニック株式会社 OBPパナソニックタワー健康管理室	
道家 貴美子	国民健康保険 智頭病院	
柳町 まゆみ	横浜総合健診センター 保健看護科	
山田 美佐	東芝ヒューマンアセットサービス株式会社 関西支社保健センター(駐在先: 楠東芝 関西支社)	
山本 千代	三菱重工業株式会社 神戸造船所 健康管理G	
吉澤 裕世	中央大学	
吉住 次恵	財団法人 君津健康センター 産業保健部 保健指導係	
渡邊 澄子	東日本旅客鉄道 株式会社 JR東日本健康推進センター 保健看護室	

(修了者 45名)

平成23年度 厚生労働省 先駆の保健活動交流推進事業 保健師活動強化コンサルテーション事業 「中堅期保健師コンサルテーションプログラム(産業分野)」 グループリーダー一覧		
氏名	所属	備考
亀田 真紀	金沢大学保健管理センター	平成22年度 受講者
金子 美千代	警視庁 健康管理本部	
鈴木 純子	日本アイ・ピー・エム株式会社	
塚田 月美	パナソニック電工電路株式会社	
山下 珠美	株式会社 西日本シティ銀行	
横山 淳子	パナソニック 株式会社	検討会 委員
五十嵐 千代	東京工科大学医療保健学部	
齋藤 明子	ヘルス&ライフサポートTAK	
椎葉 倫代	新日鉄ソリューションズ株式会社	
柴戸 美奈	財団法人 福岡県すこやか健康事業団 総合健診センター	
西内 千代子	日本看護協会 保健師職能委員・西内ヘルスコンサルティング・オフィス	
六路 恵子	全国健康保険協会本部	

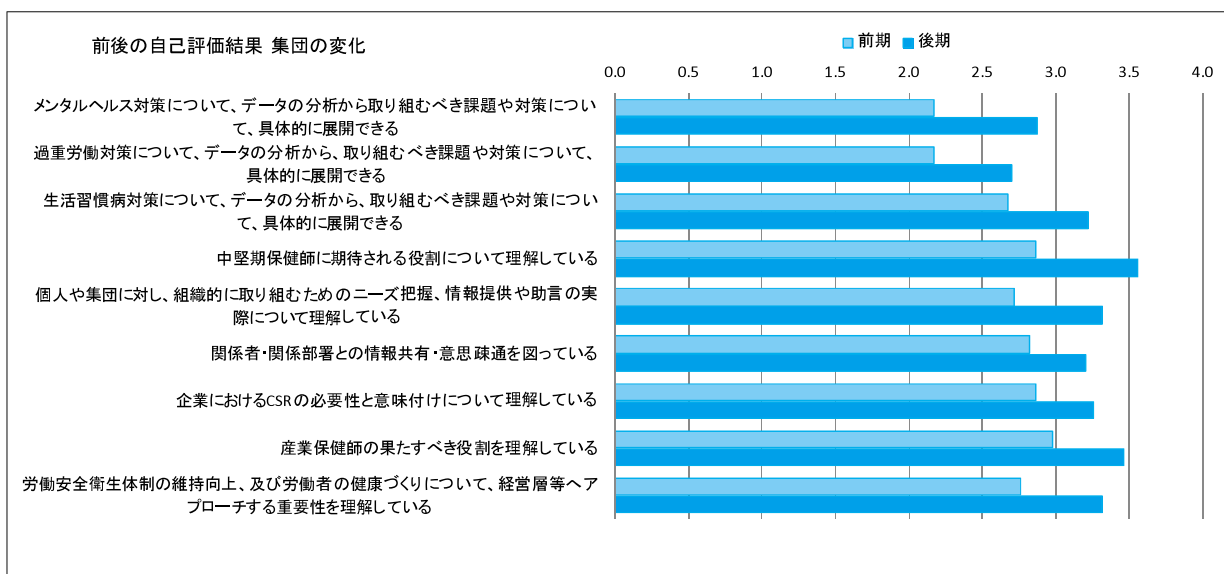
2. 受講者・グループリーダーからのアンケート結果

1) 受講者の自己評価結果

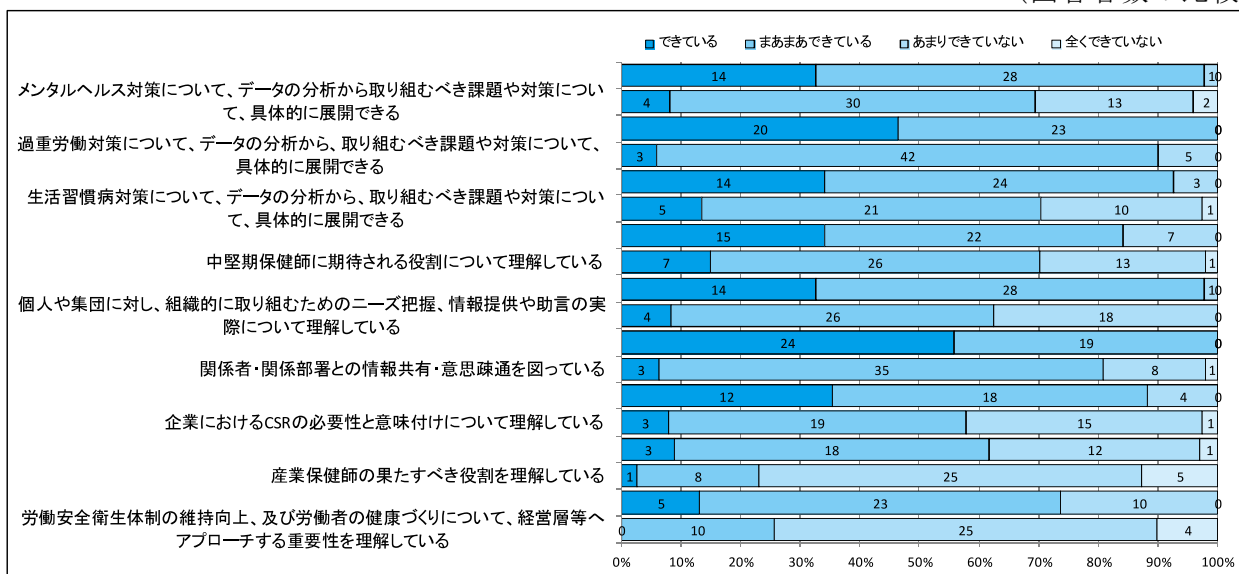
受講者には前期コンサルテーションプログラム開始前と後期コンサルテーションプログラムの終了後に、コンサルテーションプログラムの到達目標に対する達成度について自己評価シートに記入いただいた。

① プログラム受講前後の自己の変化

到達目標全ての項目について、前期コンサルテーションプログラムでは、「2.あまりできていない」～「3.まあまあできている」の回答数が多かったが、後期コンサルテーションプログラムの終了後では「3.まあまあできている」の回答が有意に増加した。（※「1」をできていない、「4」をできているとした中での、自己評価のポイント比較）



(回答者数の比較)



下段：受講前、上段：受講後

② 受講者の自由記載から

- ・ “作業関連疾患を分析し展開する能力” について  
「もっと実践訓練が必要」「職場に戻って改めて取り組みたい」「できているつもりだったがまだまだこれからだとわかった」等の記載があった。
- ・ “職場における健康課題や体制作りに関するマネジメントについて組織内外に提言する” ことについて  
「プログラムに参加して理解が深まった」「自ら動くことの重要性を感じた」「意識するようになった」等の記載があった。
- ・ “経営方針やCSRに関する提言能力” について  
「理解はできても実践までは遠い」「広い視野を持つようになった」「必要性を再認識した」等の記載があった。

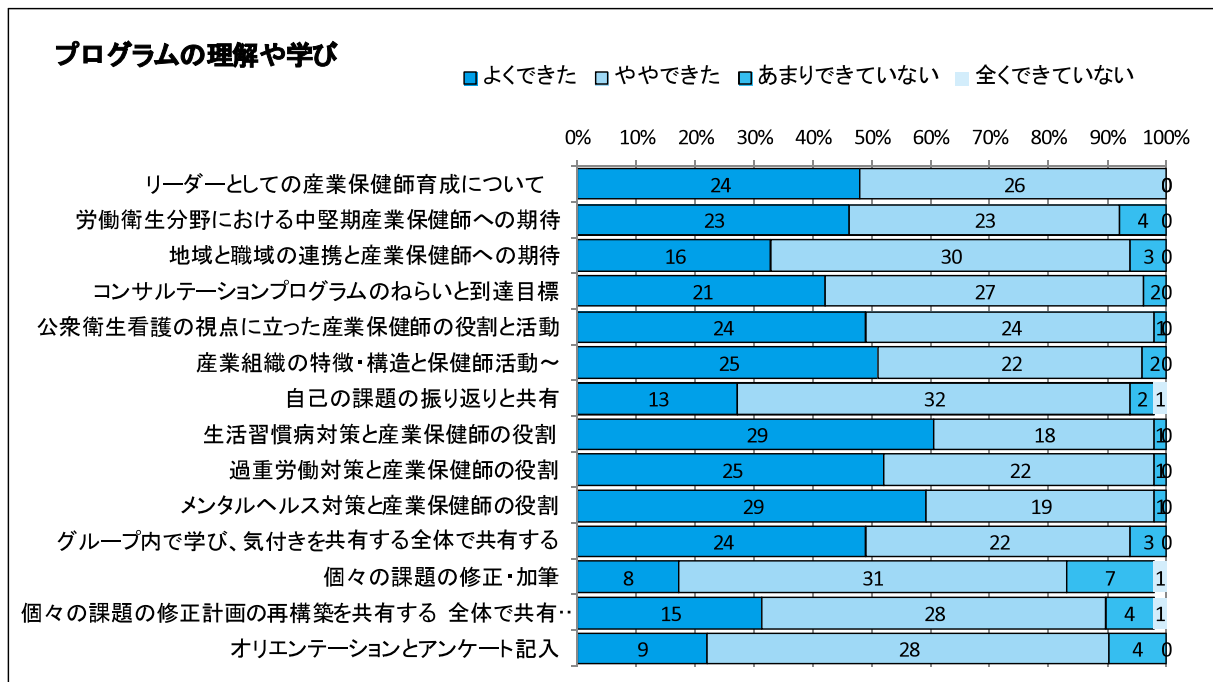
2) 受講者のアンケート結果

受講者から、コンサルテーションプログラム受講後、アンケートの回答を得た。

(グラフ内の数字は回答人数)

① 前期コンサルテーションプログラムの内容に対する理解や学びについて

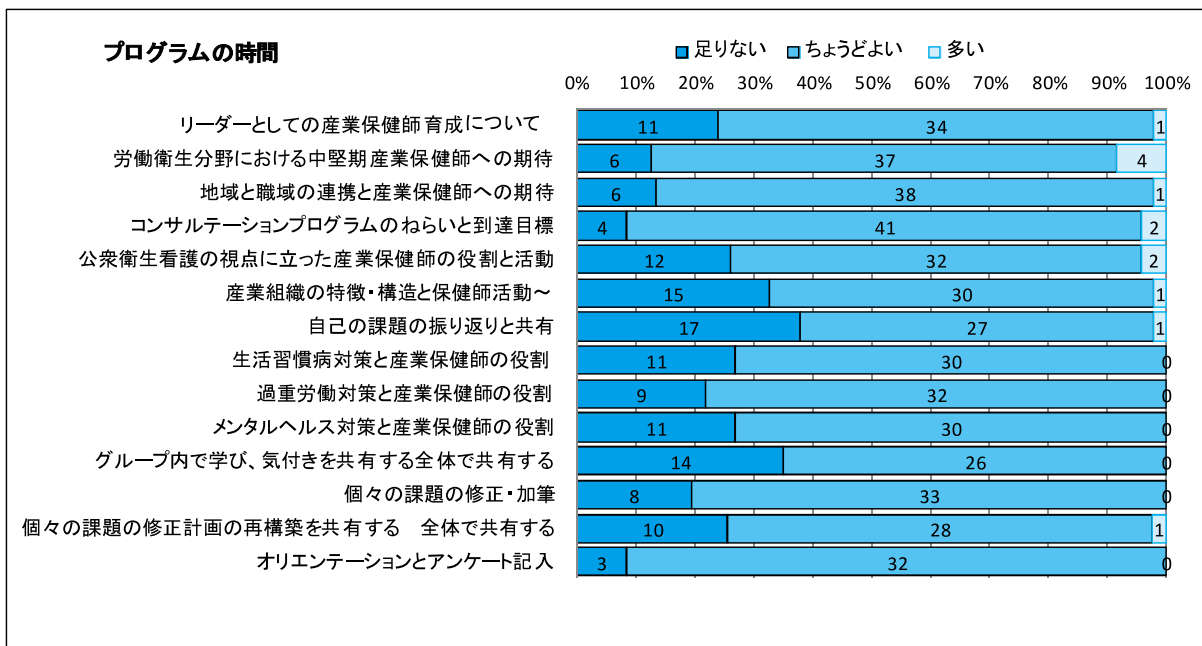
- ・ 受講者は、ほとんどの講義内容について“ややできた”“よくできた”と回答した。
- ・ グループワークである「自己の課題の振り返りと共有」や「個々の課題の加筆修正」などについては“よくできた”の回答割合が30%以下と低い傾向にあった。





② 前期コンサルテーションプログラムの時間について

- ・ 「自己課題の振り返り」や「グループ内での気づきの共有」の時間が足りないと回答した受講者が40%近くに上った。
- ・ 「産業保健の特徴・構造と保健師活動」の講義についても30%強の受講者が、時間が足りないと回答した。



③ 前期コンサルテーションプログラム終了時の意見や感想

受講者から、以下の各質問に対して自由記載が得られた。全員の回答の中から、複数の受講者が記載した内容を抜粋した。

中堅期産業保健師としての活動について、本プログラムを通じて変化した考え
・点や線での情報だけでなく、面での情報も考えていくことを再考した
・個としてだけでなく、組織に提言していきける仕事のすすめ方が、あらためて大事であることを感じた
・情報を活用(収集)、分析することなど見過ごしていた情報がたくさんあった
・経営状況を把握し、優先度を見極めて実施していくこと
・自組織の中でどう自分を位置付けていくか、どうアピールしていくかを考えていく必要があると思った
・自分なりに成長できてる部分も、足りないところや努力すべきことも確認できた
・考えを深めたり文献を読むこと、業務の振り返りなどの時間が持ていなかったが、今回の研修プログラムは貴重な時間となった
・一日目はとても苦しかったが、二日目は知らないうちに多くの気づきがあり、課題シートの意味がわかった
・後輩を育成するという視点で自分の活動を組み立て提案していく

中堅期産業保健師としての役割をどう再認識したか
・ニーズに合わせた資料の作り方やプレゼンの方法、誰にアピールしていくかを考えて活動していく
・個人、集団、組織を連携して、マネジメントしていくこと、地域との連携も持つていく
・リーダーシップをもち、認められる働きをしていく
・チームとして健康支援活動をしていく上で、上手くチームを活用していく
・自らの業務をアピールする力、プレゼン力を高め、企業、組織に貢献していく
・個の対応に留まらず、常にPDCAサイクルを展開していく
・幅広く全体を見るよう視点を持って業務の遂行に当たる
・健康管理、労働衛生を会社と一緒に働かして協力して活動していく
・職場診断が大切で、事業主と労働者両者の有益さを考えて活動していく
・産業保健師のプロ・リーダーとして会社へもっと貢献していきたい
・自分が学んだこと、目ごろ感じていることを部下や同僚にも伝えていく

2日間の前期プログラムを通じて、後期までの実践計画の見直し修正が必要だと判断した点
・実践計画がどうしても大きくなりがちでもっとブレイクダウンしていかないと評価しづらいこと
・目標をどこに持っていか、優先順位をどう付けていくかをより吟味し、練っていく必要がある
・目的の絞り込み、それに応じた情報の整理、必要な情報をうまく分析していくこと
・目的、評価指標があいまい。誰のための何のためのを意識していなかった
・アセスメントが不十分であった。→目的についても効果についてももう少し考えて実践計画を見直そうと思った
・もう少し詳細なデータの抽出、全体的な内容状況を把握したうえで実施協力者と共同していきたい
・情報を違った計画にしてしまうと、本来の目標には効果が出ないので、もっと大きな視点で見ないといけない
・評価のできる実施計画の立て方の重要性を学び修正が必要と感じた
・自らの行っている業務の評価が「できなかったこと」に注目されすぎていた

2日間の前期プログラム内容が、今後、自組織での実践活動を進めるうえで参考になった理由
・グループワークで周りのメンバーやグループリーダーでの考え方や方法などをアドバイスいただき、違う視点で理解できた
・ただ日常業務だからするのではなく、誰のための、何のための業務か、本当に必要な業務か、など、1つ1つ精査しながら自組織での活動を展開することが改めてわかった
・自分の弱い部分(データ分析)客観的評価を分析することや文献収集方法、読み解く力を身につけたいと思った
・これまでの活動を振り返り、誰のための、何のためのを見つめ直していきたい
・1人職場なので、さまざまな企業につとめている保健師の皆さんの意見を聞けた
・今後実施する活動について今回のシートを参考にまとめて、上司へのプレゼンなどに使いたい
・課題をどのような視点から見えていき、その改善にどのように取り組んでいくのかイメージが持てるようになった
・組織に働きかけることについて、学ぶ機会となった。(自己流、講義や本だけでなく学べた)
・自分の不得手なところも見出せた

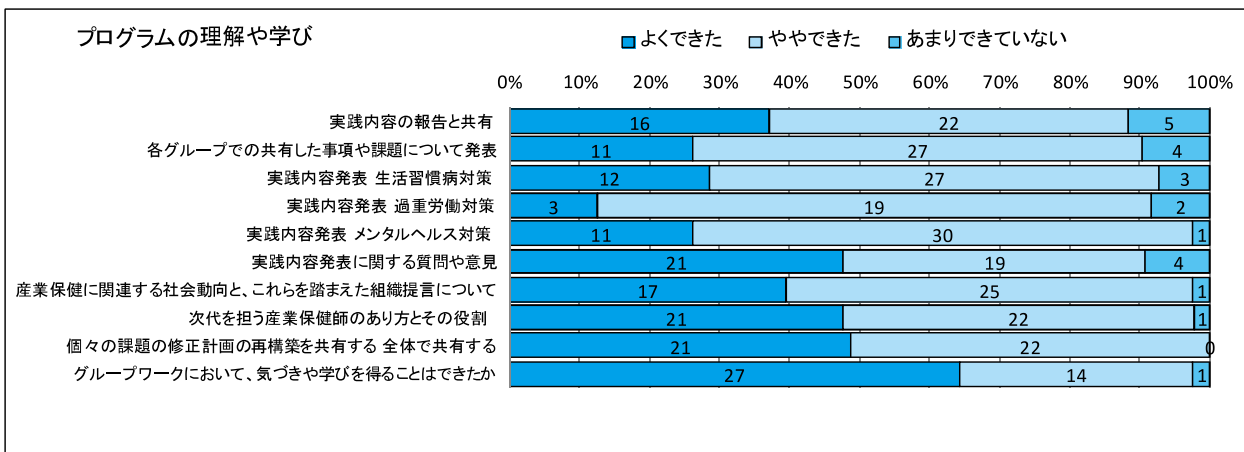
\* 「2日間の前期プログラム内容が、今後、自組織での実践活動を進めるうえで参考になったか」の問いに対しては、全員が「はい」と回答した。

前期プログラム全体についての、意見・感想
・グループワークの時間が短くてなかなか落とし込んでディスカッション出来なかった
・グループワーク、その後の発表の時間が十分あったのは、とても良かった
・他の組織の取り組みも分かり参考になった
・1人では取り組めない、参加したことで得たことが多かった
・事例発表が聞けたのがよかった
・グループリーダーがいてくれて討議がしやすかった
・課題シートを書くことは正直大変だったが、自分の今までの取り組みと課題が明確になりとてもよかった
・元気で熱い優れた産業保健師の方々からエネルギーをいただいた
・今までのやり方(マンネリ、手抜き)で反省することが多々あり、カツを入れてもらった
・グループワークが今一つ活発でなかった。グループワークの難しさを感じた

④ 後期コンサルテーションプログラムの内容に対する理解や学びについて

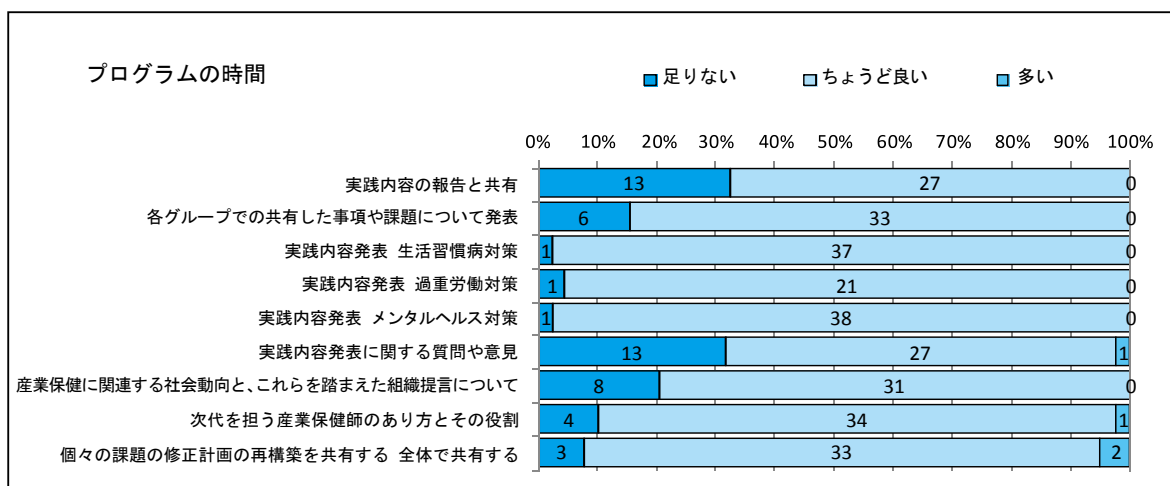
受講者には前期同様、コンサルテーションプログラム終了後にアンケートへの回答いただいた。結果は以下の通り。

- ・ 全ての項目において90%以上が“よくできた” “ややできた” と回答した。
- ・ 「個々の課題の修正計画の再構築と全体で共有する」「グループワークにおいての気づきや学びを得ることはできたか」対しては、回答者ほぼ全員が“よくできた” “ややできた” と回答した。



⑤ 後期コンサルテーションプログラムの時間について

「実践内容の報告と共有」、「実践内容発表に関する質問や意見」について“足りない”との回答が30%強あった。その他の項目については80%以上が“ちょうどよい”と回答した。



⑥ 後期コンサルテーションプログラム全体を通しての意見や感想

受講者から、以下の各質問に対して自由記載が得られた。全員の回答の中から、複数の受講者が記載した内容を抜粋した。

■中堅期産業保健師としての活動について本プログラムを通じて変化した考え	人
・PDCAを業務に組み込んで実践に移す	9
・業務を整理しまとめる	5
・データ分析と効果的な資料作成	5
・産業医保健職だけでなく広い視野でのチームで実践	5
・目的目標をしっかりと立てる	4
・個人集団組織を意識した活動	4
・現状分析から課題を明確にする	2
・会社の状況やニーズに合っているか評価する	2
・戦略的に取り組んでいく	2
・組織人企業人として社会動向もキャッチしていく	2

■中堅期産業保健師(産業保健活動実践のリーダー)としての役割の再認識	人
・周囲を巻き込みながらチームとして活動する	8
・他職種関連部署との連携する中での中心的役割を果たす	6
・視野を広げ地域や他機関とつながりを持つ	6
・現任教育に積極的にかかわる	3
・後輩の育成も含め実践力をつけておく	3
・プレゼンテーション力を発揮する	2
・経営に結び付ける産業保健活動	2
・社会情勢や会社状況にも注意していく	2

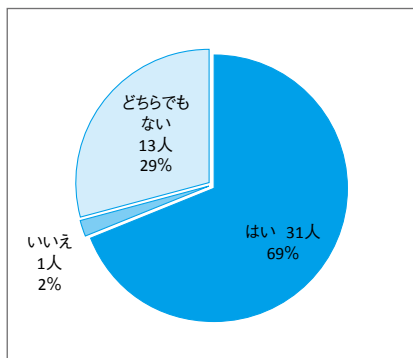
■マネジメントや組織提言について、今後の実践で活用しようと考えた内容	人
・社内風土も理解したうえでデータ分析により理解を促す	5
・経営者に必要なデータを発信する	4
・プレゼンスキルを上げる	4
・資料の作り方見せ方・見える化の実践	4
・根拠や問題点を伝えられるように今回の実践記録を参考に働きかける	3
・事業場の利益になるような考を提言していく	2
・社内外をとおしたネットワークづくり	2
・担当する事業所の経営方針やCSRを調べる	2
・メンタルヘルス計画をチームで着手する	2

■プログラム全体についての、意見感想	人
・グループリーダーに励まされ力をいただいた	7
・講義だけでなくグループワークが多くあり自分では気付かなかったところの視野が広がった	6
・4日間充実していてよかった	6
・とても苦しかったが、実践シートを書くことで自分の実践を整理できた	5
・グループリーダーの能力の高さにより受講者の満足度が大きく左右される リーダー選定は大事	5
・期間が短すぎた 半年ほしい	5
・良く練られたプログラムだと感じた	4
・中堅期保健師メンバーと意見交換でき貴重な時間を持てた	3
・課題シートは早く送ってほしい	3
・誰でも受講しやすい環境を整備してほしい	3
・他企業での対応について意見収集の機能がよかったほうがよい	3
・中堅期として自分の能力や知識を再認識でき、不足しているところなどレベルの確認ができた	2
・グループワークが多すぎる	2

⑦ 研修への参加について

後期コンサルテーションプログラム終了後に、受講者から各所属部署における研修への参加についての質問に対する回答が得られた。

■ 研修は受講しやすい環境か その理由



理由	人数
はい	16
業務調整が可能	5
予算化されている	3
いいえ	1
職場の理解がない	1
わからない	4
研修費用・旅費	4
業務との兼ね合いによる	5
自主参加なら可能	2
一人職場	1

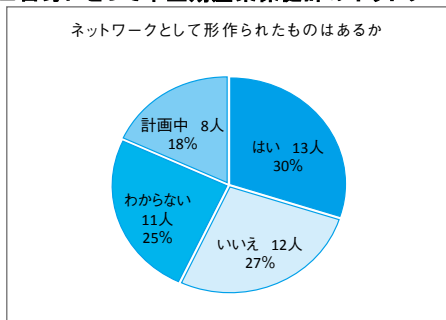
研修に参加しやすくなるためにはどのような仕組みが必要と考えるか	人
・研修参加を義務とするような制度を整えていく	10
・研修の重要性を企業にも理解してもらおう	5
・研修費用が安価	4
・研修時期を早期に提示してほしい	3
・研修参加により知識と技術の向上が業務に活かせる	3

研修についての、今後の希望	人
・経験年数に応じた研修を実施してほしい	11
・今回の研修終了者のための継続教育がほしい	8
・募集案内が広くPRされるようにしてほしい	6
・継続看護協会での定例事業にしてほしい	5
・各地での開催	5
・細かい分野別で助言頂ける研修を期待している	3

⑧ 自分自身の中堅期産業保健師のネットワークとして形つくられたものについて

後期コンサルテーションプログラム終了後に、受講者から、今回のコンサルテーションプログラムに参加したことにより自分自身のネットワークが作られたかについて回答を得た。

■ 自身にとって中堅期産業保健師のネットワークとして形つくられたものはあるか、それはどんなものか



ネットワークとして形つくられたもの	人数
グループメンバーとの情報交換	11
県内産業保健師との連携	5
他の研修会等との連携	3

⑨ 今後の保健師活動の成果普及への協力について

今後の保健師活動の成果の普及やコンサルテーションプログラム実施への協力の見通し

見通し	人数
自組織他部署他職種への報告	40
学習会研究会等への報告	12
研修グループリーダーや講師	8
学会発表	10
雑誌への投稿	5
その他（裏方準備、上司と相談）	2

⑧ その他

受講者から、気付いたことや感想など、下記の自由記載が得られた。

その他	人
・自身の振り返りができた。	5
・とても良い経験をした。パワーアップにつながった	5
・実践のまとめは重労働だったが深く考える時間を持てた	4
・企画側の熱い思いに触れ感謝している	2
・広い分野で活躍する保健師が全国にたくさんいることは本当に励みになる	2
・講義や発表を聞いて、今後取り組むことがはっきりしてきた	2
・最新の情報を得る必要性とその方法について学ぶことができたのでそれらをうまく活用していきたい	2
・実は結構できていることもあり、それを見る化することの必要性を改めて感じた	2
・保健師だけの研修はありがたかった	2

3) グループリーダーからのアンケート結果

協力いただいたグループリーダー延べ12名全員から以下の意見が得られた。

グループ構成

人数は適当か	回答者のグループ人数	回答理由（複数回答）	人数(人)
はい(7人)	6人 4人グループ	一人一人の意見を出す時間が十分取れた	4
	1人 5人グループ	いろいろな意見が出る	3
		内容について受講者が互いに理解を深める	2
いいえ(5人)	4人 3人グループ	グループの意見を引き出すのに苦勞した	3
	1人 5人グループ	所属がばらばらで展開しにくい	2

担当したグループ内の受講者の様子

・意見が出始めるまでに時間がかかった
・前期は自分の実践をメンバーに伝えることすら遠慮がちだったが、後期は自身で真剣に取り組んだ結果の報告だったので自信に満ちた表情で意見も活発に出た
・現状の業務に精一杯頑張っている状況で中堅期の役割を意識する機会になったようだ
・メンバー個々の気づきもあり、リーダーが介入した場面もあった
・経験年数が同程度だったので視点も同レベルで意見を出しやすかった
・最初は自分がしてきた事業に向き合えていない様子だったが、最後にはやるべきことや、さらなる課題について話しあっていた

進める上で気づいたことや留意点

・意見を引き出すのがとても難しい	・時間配分への配慮が重要
・発言が偏らないようバランスを意識した	・テーマごとに必ず全員の発言を促す

グループワーク進め方の手引きについて

・手引きがあると方向性がぶれない	・具体的でわかりやすかった
・手引きの説明とともに事前の打ち合わせがあったので理解が深められた	

プログラムにグループワークを取り入れたことについての意見や感想

・中堅期に求められることを考える際、グループの力を借りることで、いろいろな角度から新鮮な気持ちで取り組むことができたようだ
・グループワークでは様々な立場からの意見が出てとても効果的な学習になるが、リーダーの力量に左右されるので難しい
・中堅期保健師の自覚を持つこと。責任を果たしていく心構えの時間として有効だったと思う
・自由討論でなく達成目標のあるグループワークであるため必要な内容だと思う
・講義の咀嚼の仕方確認でき、メンバー間の相互交流もあり、グループのダイナミクスは大きいと思う
・グループメンバーの入れ替えあるいはテーマ別合同のコマもあってよい
・グループワークはとてもよいが前期後期同メンバーとの意見交換になるので良い面もあれば、メンバー構成によっては意見が停滞することにもなりかねない気がした
・課題があつてのグループワークでは、前年度の研修会より質的評価ができやすく、達成感があつたのではないかと思う

### 3. 資料一覧

以下に、コンサルテーションプログラムで実際に使用した様式を示す。

- 資料 1 中堅期コンサルテーションプログラム（産業分野）募集要項
- 資料 2 到達目標 評価シート
- 資料 3 前期プログラム受講者アンケート
- 資料 4 後期プログラム受講者アンケート
- 資料 5 グループリーダーへのアンケート
- 資料 6 事前学習参考文献等
- 資料 7 A 課題整理シートと記入にあたって
- 資料 8 B 実践計画シート
- 資料 9 A' 実践結果シートと記入にあたって
- 資料 10 「グループワーク進め方」手引き（前期）
- 資料 11 「グループワーク進め方」手引き（後期）
- 資料 12 グループワークディスカッションシート DEGH

平成23年度 厚生労働省 先期的保健活動交流推進事業  
保健師活動強化コンサルテーション事業  
中堅期保健師コンサルテーションプログラム（産業分野）  
募集要項

## 1. プログラムの目的・目標

**目的** 次期統括保健師の役割を担える中堅期保健師の育成  
**目標**

- ・ 複雑かつ社会問題化した困難事例や新たな課題に対応するため、職域に潜在する健康課題を分析できる能力を高め、事業を展開するための実践力を向上する。
- ・ 地域・職域の健康課題に応じた事業を展開するなかから、その成果を新たな政策課題として提示できる能力を強化する。
- ・ 自組織において、中堅期保健師としての持てる力を組織で十分に発揮できるとともに、組織の活性化につながるような働きかけやシステムの改善・提案・構築ができる能力の向上を図る。
- ・ 共同で学び合うことを通して、保健師の専門性の経験知や保健師活動の真価を再認識することで、モチベーションの向上、保健師としてのアイデンティティの強化につなげる。

## 2. 対象

企業・健康保険組合・労働衛生機関等に所属し、産業保健活動に携わっている中堅期の立場にある保健師で、概ね産業保健の実務経験を10年以上有するか、産業分野とは限らず保健師として通算実務経験年数で概ね10年以上有する者で、所属長の推薦を受けた者 60名程度(東京30名、神戸30名)

## 3. 実施期間・場所

神戸会場：公益社団法人日本看護協会神戸研修センター

神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1 国際健康開発センター4階 TEL078-230-3250

前期プログラム 平成23年 9月8日(木)10:00~17:30、9日(金)9:30~16:00

後期プログラム 平成23年12月7日(水)10:00~17:30、8日(木)9:30~16:00

東京会場：公益社団法人日本看護協会JNAホール

東京都渋谷区神宮前5-8-2 TEL03-5778-8549

前期プログラム 平成23年10月26日(水)10:00~17:30、27日(木)9:30~16:00

後期プログラム 平成24年 2月 2日(木)10:00~17:30、3日(金)9:30~16:00

## 4. 実施内容（別紙参照）

### 1) プログラムの特徴

#### (1) 課題テーマの選択

3テーマ（メンタルヘルス、過重労働、生活習慣病）のうちから、参加者は希望するテーマをひとつ選択する。

#### (2) プログラムの形式

前期後期2回のプログラムの中に、講義、ベストプラクティス発表、課題討議（グループワーク）、課題実践、全体討議を含む。講義による知識の習得にとどまらず、自己の経験や課題について、テーマごとのグループワークにおいて振り返り、他者の発言を聞きながら企画修正し自組織での実践を進める。また、課題の実践を進めるにおいて不足する情報や技術の習得については、ベストプラクティスの発表で補うこととする。

#### (3) 事例発表者とグループリーダーの選定

ベストプラクティスの発表者と、テーマ別グループワークを進めるためのグループリーダーは、産業保健師としてリーダー的役割を担っている保健師が担当する。

### 2) 受講者の実施事項

コンサルテーションプログラムに参加した者は、以下の事項を実践する。

#### (1) 事前課題

- ・ 参考文献を読む。
- ・ 自己の選択したテーマにおいて、以下の視点でこれまでの実践とその結果について、以下の視点で整理分析を行う。
  - ① 健康課題の根拠となるデータ等の整理分析
  - ② 法的施策的情報整理
  - ③ これまでの取り組み、関連事業の総括



- ④ 対象者や対象集団からの情報収集
- ⑤ 関係する部署、者からの情報収集
- ・ 整理分析結果をもとに課題の抽出と実践計画(試案)を策定する。
- (2) 前期プログラム  
講義・発表内容やグループワークでの意見交換を参考に実践計画(試案)を修正し実践の見通しを立てる。
- (3) 自組織での実践  
実践計画に基づいて自組織での課題実践に取り組み、内容を資料化する。
- (4) 後期プログラム  
・ 資料化した内容をもとに、自組織での課題実践の内容を参加者で共有し、目標の到達度について評価する。  
・ 中堅期産業保健師としての自己に補足すべき能力を明確にし、新たな実践への見通しを立てる。
- 3) 修了証の発行  
コンサルテーションプログラム参加者には、修了証を発行する。

## 5. 募集及び選考方法

- 1) 募集期間：平成23年6月20日(月)～7月1日(金)  
受講者を以下の要件で募集する。応募者の中から、書類審査を行い決定する。
- 2) 応募資格  
以下の要件を満たしていることを条件とする。(看護協会会員・非会員は問わない)  
  - (1) 現在、企業・健康保険組合・労働衛生機関等に所属し、産業保健活動に携わっていること
  - (2) 保健師実務経験を概ね10年以上有する者
  - (3) 所属の理解が得られ、プログラム実施期間を通じて継続参加できること
  - (4) 自組織での組織的な実践が可能な協力体制が得られること
  - (5) 自組織で、今後、次期統括者としての役割を担っていこうとする意志があること
  - (6) 本プログラムでの計画、実践、成果の記録やデータ等の提出ができること
  - (7) 自組織の産業保健活動の展開に留まらず、今後他組織への協力助言等幅広く活動できる意向があること

## 6. 成果の公表や学会発表、取材対応等

- 1) 本事業の普及啓発をねらい、成果の公表や学会発表、マスコミ等の取材には積極的に対応していただきたい。
- 2) 発表時期は成果報告書提出後(平成24年4月以降)とする。
- 3) 日本看護協会の「平成23年度保健師活動強化コンサルテーション事業」として実施した旨を明示すること。
- 4) 本事業の実施年度途中に取材を受ける場合は、本会事務局に事前連絡すること。

## 7. 費用 参加費無料、交通費宿泊費は自己負担

## 8. 応募方法

- 1) 応募用紙の提出  
応募希望者は、応募書式一式(様式1-2)を整えて期日までに応募用紙を下記事業担当宛郵送する。  
※応募用紙は、日本看護協会公式ホームページ(<http://www.nurse.or.jp/>)よりダウンロードする。
- 2) 締切  
平成23年7月1日(金)12:00必着
- 3) 送付先  
封筒に「中堅期保健師現任教育プログラム(産業分野)応募」と朱書きし、以下住所に郵送すること。

公益社団法人 日本看護協会 事業開発部 保健師活動強化コンサルテーション事業担当  
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-8-2

## 9. 選考結果の通知および発表

- 1) 決定者には、申請者・推薦者あてに文書で通知する。
- 2) 選外者に対しては、申請者本人のみに文書で通知する。
- 3) 結果通知は、平成23年8月初旬迄の発送を予定する。

【問合せ先担当部署・担当者】  
公益社団法人 日本看護協会 事業開発部 (担当：亀ヶ谷 塚尾)  
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-8-2  
TEL:03-5778-8549 FAX:03-5778-5602  
E-mail : jna-phn@nurse.or.jp

## 中堅期保健師コンサルテーションプログラム（産業分野）応募用紙

記入日 月 日

ふりがな 氏名		性別	男・女	生年月日	昭和 年 月 日生 ( 歳)
ふりがな 現住所	〒			電話番号	
勤務先	勤務先 (所属部署 も記載)	電話番号			
		FAX番号			
	職位		Eメールアドレス		
	所属部署の 保健師数		人		
所在地	〒				
連絡受信場所 <small>※現住所・勤務先と異なる場合のみ記入</small>	〒			電話番号	

- 皆様から頂いた個人情報については、個人情報に関する法令。規範および本会諸規定に則り適正に管理いたします。
- 氏名、勤務先、電話番号、Eメールアドレスを受講者名簿に掲載し、受講者名簿は、受講者同士の情報交換のために配布させていただきますのでご了承ください。

参加希望会場	希望にチェックしてください	<input type="checkbox"/> 神戸	<input type="checkbox"/> 東京
--------	---------------	-----------------------------	-----------------------------

産業保健師としての経験年数	年	ヵ月
産業分野以外での保健師経験年数	年	ヵ月
合計	年	ヵ月

## ( 現在の職場以外での職務経歴 )

年 月	勤務先(部課室係)	職務・活動内容	職位
昭・平 年 月より			
昭・平 年 月まで			
昭・平 年 月より			
昭・平 年 月まで			
昭・平 年 月より			
昭・平 年 月まで			

学会発表 対外活動等
------------

グループワーク希望テーマ 希望にチェックしてください (一つ選択)
<input type="checkbox"/> メンタルヘルス <input type="checkbox"/> 過重労働 <input type="checkbox"/> 生活習慣病

裏面に続く

※欄は記入しないこと

※

氏名

応募動機

中堅期保健師としての役割についてのご自身の考え

グループワークで選択したテーマについての課題認識と対応についてのご自身の考え

資料番号	※記入不要
------	-------

平成 23 年度 厚生労働省 先駆的保健活動交流推進事業  
 保健師活動強化コンサルテーション事業  
 中堅期保健師コンサルテーションプログラム(産業分野)

## 推 薦 書

平成 年 月 日

公益社団法人 日本看護協会

会長 坂本 すが 殿

(推薦者)所属 \_\_\_\_\_

(推薦者)氏名 \_\_\_\_\_ 印

下記の者を、志願者として推薦いたします。また、プログラムでの自組織の実践に対し協力体制を確保致します。

ふりがな 氏 名		
志願者との関係		
推 薦 所 見	推薦理由	

※推薦者は、所属上司とする

中堅期保健師コンサルテーションプログラム(産業分野)

記入日 前期: 月 日・後期: 月 日

ID

参加テーマ メンタル・過重労働・生活習慣病

到達目標 評価シート (該当する箇所の数字を○で囲んでください)

必要な能力	到達目標	事前評価 (神戸9月8日・東京10月26日)				事後評価 (神戸12月7日・東京2月3日)				評価の理由 (事後評価時記入)
		できて いる	まあま あでき ている	あまり できて いない	全くで きてい ない	できて いる	まあま あでき ている	あまり できて いない	全くで きてい ない	
1	作業関連疾患を分析して展開する能力	4	3	2	1	4	3	2	1	
2	職場における健康課題や体制作りに関するマネジメントについての組織内外に提言する能力	4	3	2	1	4	3	2	1	
3	健康づくりの視点からの、経営方針・CSRに関する提言能力	4	3	2	1	4	3	2	1	

平成23年度 先駆的保健活動交流推進事業  
 保健師活動強化コンサルテーション事業  
**産業分野における中堅期保健師のコンサルテーションプログラム**  
**《前期プログラム》参加者アンケート**

記入日 月 日  
 I D 年  
 テーマ メンタル・過重労働・生活習慣病

今回の前期コンサルテーションプログラムについてお尋ねします

1)以下の内容について、該当する箇所に○をつけてください

項目	理解や学び				プログラムの時間		
	よくできた	ややできた	あまりできていない	全くできていない	多い	ちょうど良い	足りない
1日目プログラムの、以下の内容について理解できましたか、また、時間は適切でしたか							
①	4	3	2	1	3	2	1
②	4	3	2	1	3	2	1
③	4	3	2	1	3	2	1
④	4	3	2	1	3	2	1
⑤	4	3	2	1	3	2	1
⑥	4	3	2	1	3	2	1
⑦	4	3	2	1	3	2	1
2日目プログラムの、以下の内容について理解できましたか、また、時間は適切でしたか							
①	4	3	2	1	3	2	1
②	4	3	2	1	3	2	1
③	4	3	2	1	3	2	1
④	4	3	2	1	3	2	1
⑤	4	3	2	1	3	2	1
⑥	4	3	2	1	3	2	1
⑦	4	3	2	1	3	2	1

2)以下の項目について、カッコ内にご記入ください

① 中堅期産業保健師としての活動や役割について、本プログラム受講を通じて変化した考えはありますか

裏へ

- ② 2日間の前期プログラム通じて、後期までの実践計画の修正が必要だと判断したことはありますか → はい いいえ  
また、それは、どのような内容ですか

- ③ 2日間の前期プログラム内容は、今後、自組織での実践活動を進めるうえでの参考になりましたか → はい いいえ  
また、その理由はどのようなことですか

- ④ 前期プログラム全体についての、率直なご意見ご感想をお聞かせください

- ◆その他、ご意見ご要望等ございましたら自由にお書きください

ご協力ありがとうございました。

平成23年度 先駆的保健活動交流推進事業  
保健師活動強化コンサルテーション事業  
産業分野における中堅期保健師のコンサルテーションプログラム  
《後期プログラム》参加者アンケート

記入日 月 日

ID

テーマ メンタル・過重労働・生活習慣病

1. 今回の後期コンサルテーションプログラムについてお尋ねします。

1)以下の内容について、該当する箇所に○をつけてください。

		理解や学び				プログラムの時間		
		よくできた	ややできた	あまりできていない	全くできていない	多い	ちょうど良い	足りない
1	1日目プログラムの、以下の内容について理解できましたか また、時間は適切でしたか							
	① 実践内容の報告と共有	4	3	2	1	3	2	1
	② 各グループでの共有した事項や課題について発表	4	3	2	1	3	2	1
	③ 実践報告 生活習慣病対策	4	3	2	1	3	2	1
	④ 実践報告 過重労働対策	4	3	2	1	3	2	1
	⑤ 実践報告 メンタルヘルス対策	4	3	2	1	3	2	1
	⑥ 実践内容発表に関する質問や意見などグループディスカッション 自己の今後の実践計画について課題を深める	4	3	2	1	3	2	1
2	2日目プログラムの、以下の内容について理解できましたか また、時間は適切でしたか。							
	① 産業保健に関連する社会動向とこれらを踏まえた組織提言について 次代を担う産業保健師の在り方とその役割	4	3	2	1	3	2	1
	② 社会の動きに対応した産業保健師としての戦略的取り組みについて 中堅産業保健師としてのリーダーシップとネットワークについて	4	3	2	1	3	2	1
	③ プログラムのまとめとして学びを再確認する	4	3	2	1	3	2	1
3	グループワークにおいて他の保健師の実践発表や発言から気付きや 学びを得ることはできましたか	4	3	2	1			

2. 前期後期プログラム全体を通して、以下の項目について、カッコ内にご記入ください。

① 中堅期産業保健師としての活動について本プログラムを通じて変化した考えはありますか

② 中堅期産業保健師(産業保健活動実践のリーダー)としての役割をどう再認識しましたか

③ マネジメントや組織提言について、今後の実践で活用しようと考えた内容がありましたらお書きください

④ プログラム全体についての、率直なご意見ご感想をお聞かせください

裏へ



(公社)日本看護協会

## 3. 研修への参加についてお尋ねします。

① あなたの職場は研修を受講しやすい環境ですか  
該当する番号に○をおつけください。また、その理由をお書きください

1 はい	2 いいえ	3 どちらでもない
------	-------	-----------

② 産業保健師が研修に参加しやすくなるためにはどのような仕組みが必要と考えますか

③ 中堅期産業保健師研修についての、今後のご希望をお聞かせください

4. ご自身にとって、中堅期産業保健師のネットワークとして形作られたものはありますか 該当する番号に○をおつけください  
また、ネットワークの形について具体的にお書きください

1 はい	2 いいえ	3 わからない
4 計画中		

5. 本事業では今後、コンサルテーションプログラムの普及を通じて、保健活動の意義や効果を提示していける仕組みづくりも併せて検討していく予定ですが、こうした保健師活動の成果の普及にあたり、実際にあなたにご協力いただけることとしてどのようなことがありますか  
該当する番号全てに○をおつけください

1. 自組織他部署他職種への報告    2. 学習会研究会等への報告    3. 研修グループリーダーや講師  
4. 学会発表    5. 雑誌への投稿    6. その他( )

◆その他、ご意見等ございましたら自由にお書きください

ご協力ありがとうございました。

平成23年度 厚生労働省 先駆的保健活動交流推進事業  
 保健師活動強化コンサルテーション事業  
 産業分野における中堅期保健師のコンサルテーションプログラム  
 グループリーダーへのアンケート

記入日 月 日  
 氏名

以下の内容について該当する箇所に○を付け、自由記載欄には、ご意見をお書きください。

1、 グループリーダーの担当について

- ① グループの構成人数は適切でしたか。

はい いいえ

理由

- ② 担当したグループ内の受講者の様子はいかがでしたか。気がついたことがありましたらご記入ください。

- ③ グループワークを進めるうえで気がついたことや意見感想をご記入ください。

- ④ グループワークの進め方の手引きについて意見をご記入ください。

2、 プログラム全体について

- ① グループリーダーの立場として本プログラムに参加しての感想をご記入ください。

- ② プログラムにグループワークを取り入れたことについてのご意見や感想をお聞かせください。

- ③ プログラム全体についての感想をお聞かせください。

3、 研修実施への協力について

- ① 職場を離れての参加について、組織の理解は得られやすかったですか。

はい いいえ

理由

- ② どのような条件が整っていたら協力しやすいのかご意見をお聞かせください。

- ③ 今後研修が行われる際には、ご協力をお願いしますか

はい いいえ

理由

ご協力ありがとうございました。

## 事前学習 参考文献等

### 1) 必読文献

下記 2 点については事前に必ずご一読ください。

#### 《ホームページ》

- 平成 22 年度厚生労働省先駆的保健活動交流推進事業 保健師活動コンサルテーション事業 報告書（日本看護協会）2010 年度  
<http://www.nurse.or.jp/home/publication/pdf/senkuteki/22-houkoku.pdf> 特に p88-103 は熟読のこと
- 職場におけるメンタルヘルス対策・過重労働対策・心身両面にわたる健康づくり（厚生労働省）  
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/roudoukijun/anzeneisei12/index.html>

### 2) 参考文献

可能な範囲で一読するのが望ましい文献は、次の通りです。

なお、これらの文献は、著作権法によりコピー等でお配りすることはできませんので、あらかじめご了承ください。

#### 《教科書他》

- 新版 保健師業務要覧第 2 版 日本看護協会出版 2011 年 2 月 1 日 新版第 2 版第 4 刷発行 総論
- 第 3 版公衆衛生看護学大系第 6 巻 産業保健指導論 増補版 2005 年 2 月 10 日 第 3 版増補版第 1 刷発行

#### 《ホームページ》

- 提言 労働・雇用と安全衛生にかかわるシステムの再構築を一働く人の健康で安寧な生活を確保するためにー  
（日本学術会議 労働雇用環境と働く人の生活・健康・安全委員会）2011 年  
<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-21-t119-2.pdf>
- こころの耳（厚生労働省）  
<http://kokoro.mhlw.go.jp/>

#### 《雑誌・学会誌》

No	標題; 副標題	著者名	雑誌名	巻(号)	ページ	発行年
1	企業経営に貢献する、健康投資としての産業看護活動 —現状と将来展望	錦戸 典子	産業看護	1(4)	p29-37	2009
2	保健師活動は軸足の確認から	大神 あゆみ	労働の科学	62(5)	p279-282	2007
全 体	3 産業保健における保健師の役割	椎葉 倫代	労働の科学	62 (5)	p283-	2007
	4 産業看護職がかかえる活動上の困難の構造と関連要因	錦戸 典子 京谷 美奈子	日本地域看護学会誌	6(2)	p72-78	2004
	5 個別支援から事業化提案決定に至るまでの産業看護職の思考過程	山田 淳子 佐藤 由美	千葉看護学会誌	14(1)	p8-16	2008
6	1人職場の産業看護活動 こんな工夫あんな工夫	今田 とも子 野崎 律子 他	産業看護	2(5)	p388-419	2010
過 重 労 働	7 過重労働対策における社内調整術	増澤 清美 末吉 亜希子 他	産業看護	1(6)	p564-578	2009
	8 どうする？過重労働と慢性疲労へのアプローチ	鈴木 純子 吉田 鈴 他	産業看護	2(6)	p492-513	2010
メン タル ヘル ス	9 復職支援 メンタルヘルス対策における産業保健師の活動から	荒木田 美香子 田中 千恵子 他	保健師ジャーナル	66 (02)	p102-120	2010
生 活 習 慣 病	10 事業所単位で継続性のある健康づくり	新垣 清乃	保健師ジャーナル	66 (04)	p327-333	2010
	11 どうする？これからのメタボリックシンドローム	武田 桂子 五十嵐 千代	産業看護	1(2)	p114-125	2009

文献検索の方法については裏面をご参照ください

## A. 課題整理シート(産業分野・プログラム開始前提出分) ご記入にあたって

本プログラムでは、受講生のみなさまが実践している内容をもとにグループワークを進める等、より実践に基づいたプログラムを進めてまいります。

つきましては、事前課題記入シートの各項目について、それぞれ必要事項をご記入のうえ、**8月31日(水)12:00**までに、日本看護協会事業開発部宛て e-mail 添付でご提出ください。(メールで送信できない方は、担当部署までご連絡ください。)

### 1. 様式、枚数等について

■用紙サイズ、枚数について、**A4・2ページ**におまとめください。

■**様式や書きぶりは自由ですが、最終ページのレイアウトと記載項目の説明を参考に、Word で作成してください。**

■提出用のほかに、自分の書き込み用として、作成したシートを1部、前期プログラム当日ご持参ください。

### 2. 提出いただいたシートの取り扱いについて

■提出いただいたレポートは、参加者全員に配付し共有することが前提となっておりますので、予めご了承ください。(社外秘となっている事項等については、各自、ご判断のうえ、記載において、固有名詞を使わないなどの工夫をお願いいたします。)

### 3. 参考文献等について

■プログラム参加の前に、別添参考文献等をご一読ください。

■「平成22年度 厚生労働省先駆的保健活動交流進事業 保健師活動強化コンサルテーション事業報告書」は、本シートのご記入の前に、必ず一読ください。なお、上記報告書は日本看護協会の公式HP <http://www.nurse.or.jp/home/publication/pdf/senkuteki/22-houkoku.pdf> からダウンロードできます。

### 4. A. 課題整理シートの記載について

保健事業の実施においては、事業の目的・目標、健康課題、対象、実施方法・時期、必要な資源、予算、評価の視点、運営上の課題、進行計画など、様々な点を検討・熟慮し、計画書(企画書)に盛りこまれ、成果を上げることが期待されています。

今回のこのシートでは、保健事業企画の前段階で、基本となる「健康課題」について、保健師として十分に把握・分析し、事業展開につなげていける力量の形成・気づきを得ることを目的としています。そのため次ページ記載項目をご参照のうえ、可能な限りの内容をご記入ください。

### 5. シートの提出について

- 1) 「事前課題記入シート」は、**8月31日(水)12:00**までにE-mailに添付して提出してください。
- 2) 提出の際には、メール標題を、「産業分野事前課題提出」とし、テーマと氏名の記入を忘れずをお願い致します。提出先 E-mail: [jna-phn@nurse.or.jp](mailto:jna-phn@nurse.or.jp)

### 6. その他

前期プログラム当日に使用する **B. 実践計画シート** も参考までに添付しております。こちらも自分で先にお書きになった場合は、自分用として一部ご持参ください。

#### ■担当部署

公益社団法人 日本看護協会 事業開発部 (亀ヶ谷・塚尾)

〒150-0001 住所: 東京都渋谷区神宮前5-8-2

電話: 03-5778-8549(ダイヤルイン) FAX: 03-5778-5602

e-mail: [jna-phn@nurse.or.jp](mailto:jna-phn@nurse.or.jp)

尚、本会は、今夏の使用電力制限を受け、8/10～16まで、全館一斉休館となります。

メールも含めて、お問い合わせに対するご返信等は、8/17以降となります事をあらかじめご了承ください。

## A. 課題整理シート記載項目

### I 実践テーマ (タイトル)

後期プログラムまでに実践が可能なテーマに絞ってご記入ください。

### II 実践内容

#### I 担当する組織・事業所等の健康に関するデータ等の整理・課題分析

- ・本プログラムで、あなたが取り組む実践テーマを中心に、基本となるデータや、課題と考える根拠となるデータ、ご自身の問題意識がより明確になるようなデータを記載してください。
- ・前述の実践データを、ご自身がどのように読み取っているのかについてもご記入ください。

#### II 法的施策的情報整理

- ・あなたが取り組むテーマに関連、もしくはご自身の実践に親連して活動の根拠となる法令・通知・要綱等や指針、所属する組織等の内規や、それをどう判断して実践に反映させているか、理解している範囲でご記入ください。

#### III これまでの取り組み・関連事業の総括

- ・あなたが取り組むテーマについて、これまでの取り組みの総括(経緯や要点を短くまとめたもの)、経過や実施内容、関連事業も含めて確認しながら、ご記入ください。
- ・その際、参加者の反応、事業の評価、ご自身の活動実績、振り返り等も含めてご記入ください。

#### IV 事業対象者(社員等)からの情報収集

- ・あなたが取り組むテーマの対象者(社員等)に、これまでの保健サービス利用歴や現状の保健サービスに対する意見・感想を確認し、事業実施者の企画・狙いと照らし合わせてください。
- ・聞き取りを通して、自身のこれまでの活動のあり方や事業の評価を行ってみましょう。

#### V 関係・協力する組織・部署・担当者からの情報収集

- ・あなたが取り組むテーマに関係する組織・部署、関係者に、現状の取り組みや課題認識など情報収集し、自身の視点と、関係者・関係部署のとの視点の違いなどを確認し、組織の全体的な課題を把握しましょう。

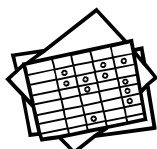
**◎なお、IVとVは、IからIIIをまとめた上で、把握した課題やあなたの問題意識が、妥当かどうかを検討するために必要な情報収集となります。単に「聞いて回る」というのではなく、課題意識を持って把握することが大切です。そのため、今回、提出までに聴取の時間等が確保できなかった場合は、これまでに把握している情報にとどめ、「新たな情報」等については空欄でも構いません。**

### VI アセスメント

- ・I～Vの内容を整理し、もしくは普段からの課題意識の上から、解決すべき点、改善に向けて組織的に展開する必要のある課題についてご記入ください。

### VII 活動計画・実践

- ・評価の結果を踏まえ、改善に向けて組織的に展開したいと考える今後のあり方を、できる限り具体的にご記入ください。後期プログラムまでに実践可能な内容であることが必要です。



#### ★事務局からひとこと★

「どの程度書いたらいいのかなあ」「書ききれない・・・」など、色々と迷われるかと思いますが、まとめるのも演習のひとつと捉えていただき、ご自身で「重要」と考えたことを中心にまとめてください。

# A. 課題整理シート

提出日:平成 23 年 月 日

お名前: \_\_\_\_\_

受講地: 神戸 ・ 東京 \_\_\_\_\_

■実践テーマ

■テーマ設定理由

・「メンタルヘルス」「過重労働」「生活習慣」の中から、希望したテーマをひとつご記入ください。  
 ・また、選択した理由も下欄にご記入ください。

項目	データや実施内容	課題・解決すべき点
I 担当する組織・事業所等の健康に関するデータ等の整理・課題分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマに直接的・間接的に関係すると考えられるデータを、選択的にご記入ください。</li> <li>・単に手元にある健診データ結果一覧をコピー&amp;ペーストするのではなく、ご自身の課題意識に沿ってまとめるなど、課題が明確になるような工夫・分析をご記入ください。</li> <li>・記載のボリュームとしては、この欄がもっとも多くなると考えていただいて結構です。</li> </ul>	
II 法的施策的情報整理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマに直接的・間接的に関係すると考えられる法律や通知、社内の規則等についてご記入ください。</li> </ul>	
III これまでの取り組み・関連事業の総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選んだテーマの経緯を確認すると共に、広がりの有無や関連した保健事業などについても、振り返る機会としてください。</li> <li>・アウトカム評価や、これまでの自身の活動も、自己チェックしてみましょう。</li> </ul>	
IV 事業対象者(社員等)からの情報収集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選んだテーマの事業について、参加、または面接した対象者からの、事業についての感想・意見(今までに把握している内容)、もしくは可能な範囲で新たに聞いた情報を書き込みます。</li> <li>・対象者が自分の健康課題を抱えるに至った経過を、どのように捕らえているのかも、同様に情報収集します。※「ご記入にあたって」を必ずご参照ください。</li> </ul>	
V 関係・協力する組織・部署・担当者からの情報収集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該健康課題に関係する部署・関係者に、取り組み状況や課題への認識を確認するため、事業について今までに把握している感想や意見、可能な範囲での聞き込み等を通して書きこみます。※「ご記入にあたって」を必ずご参照ください。</li> </ul>	
VI アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・I～Vの結果から、自身の実践をアセスメントしてください。(アセスメントの上でVIIをご記入ください。)</li> </ul>	
VII 活動計画・実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・別添のB.実践計画シートも参考にしながら、いつまでに、どこに(で)、誰と、何をするのか、意識してご記入ください。</li> </ul>	

自分は何をすべきだったかの気づきや、グループメンバー・講師への相談等があれば、ご記入ください。

A. 課題整理シート（様式の例）

提出日:平成23年 月 日  
 お名前:  
 受講地: 神戸 ・ 東京

内容は、A4 サイズ、2 ページにまとめてください。

- 実践テーマ
- テーマ設定理由

項目	データや実施内容	課題・解決すべき点
I 担当する組織・事業所等の健康に関するデータ等の整理・課題分析		
II 法的施策的情報整理		
III これまでの取り組み・関連事業の織括		
IV 事業対象者(社員等)からの情報収集		
V 関係・協力する組織・部署・担当者からの情報収集		
VI アセスメント		
VII 活動計画・実践		

自分は何をすべきだったかの気づきや、グループメンバー・講師への相談等があれば、ご記入ください。

**課題：「B 実践計画シート」の作成についての説明**

- 「B 実践計画シート」は、前期コンサルテーションプログラム2日目午後に、次ページの様式に各自記入いただく。
  
- 書き方の流れ  
受講者は、前期コンサルテーションプログラム前に記入した「A.課題整理シート」をもとに、グループワークで意見交換をしながら、自身の課題や今後取り組んでいくべき課題を再度整理修正し、後期プログラムまでの間に実践できる計画を「B.実践計画シート」に書き込んでいく。
  
- 書き方の留意点  
グループリーダーのリードやグループメンバーの助言を参考に、評価可能な目標を立て、できるだけ具体的に計画する。



記入日 年 月 日

**B. 実践計画シート [産業分野]**

参加開催地： 神戸・東京 氏名

※前期プログラムを受講後、「A. 課題整理シート」を加筆修正し、その内容を踏まえ、後期プログラムまでに実践できる内容をご記入ください

- 実践テーマ (タイトル)
- 目的
- 計画

内容	実施内容	実施者 (部署・機関等)	協力者 (部署・機関等)	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	備考
※実施内容に合わせて列を増やしてご記入ください									
(記入例) ①健康データ等の整理分析	生活習慣病有病率の10年間の経年推移	健康管理室 ○保健師	健康保険組合 ○課長	↕					

■ 評価の視点(実践内容の最終評価をどのような視点で行う予定かをご記入ください)

平成 23 年度 先駆的保健活動交流推進事業  
保健師活動強化コンサルテーション事業 提出課題について

## 1. 課題：「A' 実践結果シート」の作成と提出について



- 用紙サイズ、枚数について：様式4 **A4・6ページ以内（裏表記載で3枚）におまとめください**
  - 前期プログラム時に提出していただいた「A.課題整理シート」と、「B.実践計画シート」（各々で記入・提出不要）をもとに、添付の「A' 実践結果シート」を作成してください。
  - 「A' 実践結果シート」は、前期で提出した「A.課題整理シート」Ⅰ～Ⅶを加筆修正し、「A' 実践結果シート」Ⅰ～Ⅶを仕上げ、その後の実践としてⅧ～Ⅹを書き込んでください。
  - 書きぶりは自由です。**平成 24 年 1 月 23 日（月）12:00**までに E-mail に添付して提出してください。
  - なお、「評価」については、下記をご参照ください。ただし、あくまで参考ですので、このとおり記載されていなくても構いません。できる範囲で、ご記入ください。
  - 提出の際には、テーマと氏名を、忘れずにご記入ください。提出先 E-mail：[jna-phn@nurse.or.jp](mailto:jna-phn@nurse.or.jp)
- 提出していただいたシートは、参加者全員に配付し共有することが前提となっております。予めご了承ください。（部外秘となっている事項等については、各自、ご判断のうえ、記載において、固有名詞を使わないなどの工夫をお願いいたします。）

## 2. 課題の発表について

- 各自の実践内容について、後期プログラムでは、下記の通り、ご発表していただきます。
- ①テーマ別グループワークで、各自のグループ内で発表していただきます。発表時間は、1人7～10分程度でお願い致します（時間厳守）。
- ② テーマごとに代表者 1 名の方に全体発表していただきます。ご発表いただく方には、後期プログラム開催前（1月30日）までにお問い合わせのご連絡をいたします。

■担当部署：公益社団法人 日本看護協会事業開発部  
電話:03-5778-8549(ダイヤルイン)  
e-mail: [jna-phn@nurse.or.jp](mailto:jna-phn@nurse.or.jp)(亀ヶ谷・塚尾)

### \* 評価についての参考 活動の評価指標

(平成 22 年度地域保健総合推進事業「地域診断から始まる見える保健師活動実践推進事業報告書」, 2011、p69-73 より抜粋)

評価項目	評価指標(例)
インプット(企画評価・ストラクチャ評価)	活動計画に盛り込んだ活動の手法や投入する人材、根回し、会議日時、講演会や研修会の企画は目標に対して妥当だったか、絞り込んだ対象者に対して妥当だったか等
アウトプット(実施評価)	活動計画を実施した回数、受診率や研修会/講演会などの参加者数、参加者数のうち計画時に絞り込んだ対象者数、参加満足度等
アウトカム(結果評価)	設定した目的目標にどれだけ近づいたのか(ex 有病率、QOL 指標、健康的な生活習慣、治療中断者率等の住民の変化)

## A' 実践結果シート（様式の例）

提出日:平成 24 年 月 日  
 お名前: \_\_\_\_\_  
 受講地: 神戸 ・ 東京

内容は、A4 サイズ、6 ページまでにまとめてください。

- 実践テーマ
- 目的・目標

項 目	データや実施内容	課題・解決すべき点
I 担当する組織・事業所等の健康に関するデータ等の整理・課題分析		
II 法的施策的情報整理		
III これまでの取り組み・関連事業の総括		
IV 事業対象者(社員等)からの情報収集		
V 関係・協力する組織・部署・担当者からの情報収集		
VI アセスメント		
VII 活動計画・実践		
VIII 評価		
IX プログラムを通して中堅期と見えてきた課題や役割		
X 今後取り組むべき課題		

中堅期保健師のコンサルテーションプログラム(産業分野)  
グループワーク進め方の手引き (前期プログラム)

**グループワークを進行する上でのお願い**

※グループワークでは、参加者全員が率直に意見を交換し、理解と気づきを深められるよう、次のことにご配慮いただきながら、進行してください。  
※全体司会者が下記の内容を全体に伝えてから、開始しますが、各グループでも必要時、確認しながら進めてください。

I 相手の意見・感想を、最初から批判・否定しない

たとえ、相手の意見が十分でないときも、最初から「それではだめだ」「私はそれで失敗したから無駄だ」という表現ではなく、「こういう解決策も可能性が有りますね」「その気づきもいいですが、別のこうした角度で考えてみると、また違った実践方法が見えてくるのではないか」等と、アサーティブに、気づきを促す話し合いを心がけてください。

II 全員が「発言できる」を大切に

グループワーク(グループダイナミクス)への貢献は、各自自分の意見を言葉にすることから始まります。意見の強い人の独壇場にならないよう、参加者全員が発言するよう、心がけてください。また、意見の出ない人や混乱気味の参加者には、「どのあたりが気になっていきますか」「一つひとつ、考えてみますか」など、ゆっくり考えられるように声をかけてください。

●お気づきの点や、困ったことがあったら、委員や事務局に声をかけてください

グループ進行上、何か分からないことや、困ったことがあったら、気軽に事務局に声をかけてください。

※下記表中の「GW」は、「グループワーク」の略

プログラムNo.	時間	形式と概要	ポイントと具体的な進め方	時間配分
7	(初日) 15:20 ～ 16:50	GW 各自、提出の事前課題をもとに、組織での健康課題、問題意識に基づきディスカッション ※90分 ※グループごとに行 ※シートA、(B)、D使用	■自己の課題の振り返りとグループ内共有 ①各受講者ごとに順番に事前課題を説明(一通り全員の発表をしてから、②に進む) ②以下の視点で質疑応答を進める。 ・選んだテーマに即したデータを、十分に情報収集し、分析していたか ・法的施策的情報収集は充分であったか ・根拠に基づいた実施内容・計画であったか ・情報収集から得られた内容からの新たな気づきや課題はあったか	・各自の発表35分 時間 厳守 (7分×5人) ・質疑応答 35分 (7分×5人) ・グループ全体での話し合い 20分
	(初日) 16:55 ～ 17:30	全体発表 各グループでの話し合いの内容を共有する。 ※35分 ※事務局が進行	■全体での共有 各グループ、3分から5分発表。(グループ数によって多少の差異あり) 他のグループがどのような話し合いになったかについての概要程度で、詳細まで確認の時間まではなし。	・各グループ 3分～5分 ・委員のコメント(10分)

プログラムNo.	時間	形式と概要	ポイントと具体的な進め方	時間配分
11	(2日目) 10:55 ～ 12:00	GW ・発表者への質問は、グループの中で行う。 ・各グループごとに、発表された事例についての感想や、自己の活動への気づきについて話し合う。 ※50分 ※グループごとに進行 ※シートE使用	■グループ内で、学び・気づきを共有する ①発表事例に対する不明点や確認のための質問。(細部に渡る方法論の質問や全体共有が必要ないと考えられる質問の場合は、後ほど個別に願う) ②事例のポイントはどこのようなところか。(どのようなことが重要と思ったか。共有すべき点はどのようなことかの気づきを中心に。) ③自分が実施する場合を想定した時の疑問点や課題。(〇〇についてはどのように学んだか等)	・全員、必ず意見はいう前提で、時間配分は、グループ担当者に一任
		全体発表 ・各グループでの話し合いの内容を共有する。 ※15分 ※事務局が進行	■全体での共有 各グループ、3分から5分発表。(グループ数によって多少の差異あり) 気づきの部分を中心に、話合った内容を共有する。 ※「午後は個人ワークで修正時間を取ります」あらかじめと伝え、昼休みにも取り組んでもよいことを伝えておく。	・ひとつのグループにつき、5分～7分 ・委員のコメント(10分)
12	(2日目) 13:00 ～ 13:20	個人ワーク ※20分 ※事務局が進行 ※シートA、B、(C)使用	■個々の事前課題の修正・加筆 これまでの学び・気づきを、自分の提出課題に生かす方向で、各自修正・加筆を行う。 (※参加者の中には、自分の考えがまとまらず、書けないと思う参加者がいる可能性もあるため、そうした場合は、他の参加者の作業の妨げにならないような配慮もしながら声をかけ、修正できるように支援する)	
		GW 実践に向けての課題共有と事前課題の修正 ※80分 ※グループごとに進行 ※シートA、B、(C)使用	■個々の事前課題の修正計画の再構築を共有する 自らの修正をグループ内で共有し、他者からの意見・感想も聞くことで、事前提出課題のブラッシュアップを図る。 ①修正案は、充分か ②修正案の実現可能性や、元々の案と比較してのメリット・デメリットは何か ③更に改善を図るとしたら、何か考えられるか ④職場に戻って、具体的に何かを行っていきたいか	・各自の発表と質疑時間厳守 (10分×5人) ・グループ全体での話し合い 20分
13	(2日目) 14:50 ～ 15:30	全体発表 ・各グループでの話し合いの内容を共有する。 ※40分 ※事務局が進行	■全体での共有 各グループ、3分から5分発表。(グループ数によって多少の差異あり) 他のグループがどのような話し合いになったかについての共有。	・委員のコメント(10分)

※本コンサルテーションプログラムの目的を達成する上で、グループワークは大切な時間です。より充実したグループワークのためにも、途中、気づいた点がございましたら、ご意見をお聞かせください。

※当日の参加者の様子によって、全体進行担当者や、内容が一部、変更になる場合があります。また、グループによっては、このスケジュール通りには運営できないことも予想されますが、一応の目安として、ご参照のうえ、ご不明な点は、全体進行者等と相談のうえ、運営してください。

中堅期保健師のコンサルテーションプログラム(産業分野)  
グループワーク進め方の手引き (後期プログラム)

グループワークを進行する上でのお願い

※グループワークでは、参加者全員が率直に意見を交換し、理解と気づきを深められるよう、次のことにご配慮いただきながら、進行してください。  
※全体司会者が下記の内容を全体に伝えてから開始しますが、各グループでも必要時、確認しながら進めてください。

<p>I 相手の意見・感想を、最初から批判・否定しない たとえ、受講者の意見が十分でないときも、最初から「私ではだめだ」「私では失敗したから無駄だ」という表現ではなく、「こういう解決策も可能性がありませね」「その気づきもいいですが、別のこうした角度で考えてみるとまた違った実践方法が見えてくるのではないか」等と、アサーティブに、気づきを促す話し合いを心がけてください。</p> <p>II 全員が「発言できる」を大切に グループワーク(グループダイナミクス)への貢献は、各自自分の意見を言葉にすることから始まります。意見の強い人の独壇場にならないよう、参加者全員が発言できるよう心がけてください。また、意見の出ない人や混乱/気味の参加者には、「どのあたりが気になっていきますか」「一つひとつ、考えてみますか」など、ゆっくり考えられるよう声を心がけてください。</p> <p>●お気づきの点や、困ったことがあったら、委員や事務局に声をかけてください 本コンサルテーションプログラムの目的を達成する上で、グループワークは大切な時間です。より充実したグループワークのためにも、途中グループ進行上、何か分からないことや、困ったこと、気づいたことがあったら、気軽に事務局に声をかけてください。</p>
---

※当日の参加者の様子によって、全体進行担当者や相談のうえ、時間配分や、内容が一部、変更になる場合があります。また、グループによっては、このスケジュール通りには運営できないことも予想されますが、一応の目安として、ご参照のうえ、ご不明な点は、全体進行者等と相談のうえ、運営してください。

※下記表中の「GW」は、「グループワーク」の略

プログラム Z/A No	時間	形式と概要	ポイントと具体的な進め方	時間配分
15	(初日) 10:20 ～ 11:40	・各自提出の実践結果シートをもとに、これまでの自身の取り組みを報告し、共有する。 GW ※80分 ※グループごとに進行 ※シートA、B、A、使用	<b>■実践内容の報告と共有</b> ①各受講者が順番に実践内容や課題を報告(一通り全員の発表をしてから②に進む) ②以下の視点で質疑応答を進める。 ・データ分析やアセスメント結果を生かし、根拠ある活動に結び付けられたか。 ・職場の健康課題解決のための実践において、組織を巻き込み活動する時の困難点や課題にはどのようなことがあったか。 ・自身の実践を通して見えてきた、組織の中における中堅期保健師としてさらに力をつけるべき課題はどのようなことか。(勉強不足や力不足を感じたことは何だったか)	・各自の発表35分 時間厳守(7分×5人) ・質疑応答 30分 (6分×5人) ・グループ全体での話し合い 15分
	(初日) 11:45 ～ 12:00	・各グループでの話し合いの内容を共有する。 ※15分 ※事務局が進行	<b>■全体での共有</b> 各グループ、3分程度発表。(グループ数によって多少の差異あり) 他のグループがどのような話し合いになったかについての概要を知る程度で、詳細確認の時間はとれない。	・各グループ 3分



プログラム №	時間	形式と概要	ポイントと具体的な進め方	時間配分
19	(初日) 14:40～ 15:00	グループごとの座席のままの個人ワーク ※20分 ※事務局が進行 ※シートA、G使用	<p>■自己の今後の実践計画 これまでのプログラムを通しての学び・気づきを、自己の今後の計画に生かす方向で各自加算する。 （「足りなかった」だけではなく、どうすれば中堅期としてできるようになるのか、前向きに考えてもらう。）</p> <p>■グループ内で、学び・気づきを共有する ①発表に関する質問や意見。（実践のノウハウの質問ではなく、中堅期保健師として強化すべき能力に関連する内容とする。） ②事例のポイントはどこのようなところか。（どのようなことが重要と思っただか。共有すべき点はどのようなかの気づきを中心に。） ③自身の今後の実践を想定した時の課題。（自身の計画の〇〇についてはどのように考えたらよいか、どうすれば中堅期としてできるようになるのか等） ④今後の自身の新たな実践計画についての見直し、考えなど。</p>	<p>・全員、必ず意見は言う前提で、時間配分は、グループ担当者に一任</p>
20	(初日) 16:20～ 16:40	・各グループでの話し合いの内容を共有する。 ※20分 ※事務局が進行	<p>■全体での共有 各グループ、3分程度発表。（グループ数によって多少の差異あり） 午前中のプログラム内容も加味し、自己の今後の実践計画についての課題を中心に、話合った内容を共有する。</p>	<p>・各グループ 3分</p>
22	(初日) 16:50～ 17:30	・各グループでの話し合いの内容を共有する。 ※40分 ※事務局が進行	<p>■全体での共有 全体発表を聞いて、今後どのように自己の課題や計画をクリアしていくのかについて全員で意見交換する。</p>	
23	(2日目) 10:20～ 12:00	・テーマにそって意見を出し合う。 ※100分 ※グループごとに進行 ※シートH使用	<p>■次代を担う産業保健師の在り方とその役割について意見交換 ・社会の動きに対応した産業保健師としての戦略的取り組みについて ・中堅期産業保健師としてのリーダーシップとネットワークについて ①これまでの学び・気づきを生かし、中堅期産業保健師の在り方として感じたことや確認したことを述べる。 ②社会の動きを捉え戦略的取り組みを進めるためにはどのようなことが重要か考える。 ③自組織での活動にとどまらず、地域でのリーダーシップの発揮や、組織を超えたネットワークづくりについて、自身の考えや計画について意見交換する。 （単なる思いつきや理想ではなく、自身の実践をとおして、今後更に自らが実行できること、しなければならぬことや、必要な仕組みや準備について考えてもらう。）</p>	<p>・全員、必ず意見は言う前提で、時間配分は、グループ担当者に一任</p>
24	(2日目) 13:00～ 14:30	・各グループでの話し合いの内容を共有し、今後の在り方について討議する。 ※60分 ※事務局が進行	<p>■全体での共有 各グループ、約3分発表。（グループ数によって多少の差異あり） 社会の動き、組織の状況など、産業保健を取り巻く様々な要因を動察したうえで、産業保健師としての今後の取り組みの重要性を再認識し、各自が責任ある行動をとるためのきっかけづくりとなるよう建設的な討議を促す。</p>	<p>・各グループ3～5分発表 ・全体討議 30分</p>
24	(2日目) 14:40～ 15:40	・各自が意見を出し合う。 ※60分 ※事務局が進行	<p>■プログラムについての評価 プログラム全体を通し、受講生として体験してみたい意見感想を述べてもらう。 ・中堅期としてこのプログラムの内容が妥当か ・自身のネットワークとしてどの程度まで波及できるのか</p>	<p>・各グループ3～5分発表 ・全体討議 30分</p>

## D. ディスカッションシート (終了後回収)

中堅期保健師コンサルテーションプログラム(産業)前期プログラム(1日目)(プログラムNo. 7)  
 グループワークディスカッションシート  
 - 自己の課題の振り返りとグループ内共有 -

グループテーマ \_\_\_\_\_ グループ (記録者氏名 \_\_\_\_\_ )

①選んだテーマに即したデータを十分に情報収集し、分析していたか

②法的施策的信息収集は充分であったか

③根拠に基づいた実施内容・計画であったか

④情報収集から得られた内容からの新たな気づきや課題はあったか



## E. ディスカッションシート (本人用) (終了後回収)

中堅期保健師コンサルテーションプログラム(産業)前期プログラム(2日目)(プログラムNo. 11)

グループワークディスカッションシート

ーグループ内で、学び・気づきを共有するー

グループテーマ \_\_\_\_\_ グループ (氏名 \_\_\_\_\_ )

①実践事例発表に対する不明点や詳細確認のための質問内容

②実践事例発表のポイントはどのようなところか  
(どのようなことが重要と思ったか。共有すべき点はどのようなことか)

③自分が実施する場合を想定した時の疑問点や課題(自分はどのように学んだか)

## G. ディスカッションシート (終了後回収)

中堅期保健師コンサルテーションプログラム(産業)後期プログラム(1日目)(プログラムNo. 19)  
グループワークディスカッションシート  
－自己の今後の実践計画について課題を深める－

グループテーマ \_\_\_\_\_ グループ (記録者氏名 \_\_\_\_\_)

①発表に関する質問や意見

②実践内容発表のポイントはどのようなところか  
(どのようなことが重要と思ったか。共有すべき点はどのようなことか)

③自己の今後の実践を想定した時の課題

**H. ディスカッションシート (本人用) (終了後回収)**

中堅期保健師コンサルテーションプログラム(産業)前期プログラム(2日目)(プログラムNo. 22)

グループワークディスカッションシート  
一次代を担う産業保健師の在り方とその役割ー

グループテーマ \_\_\_\_\_ グループ (氏名 \_\_\_\_\_ )

①コンサルテーションプログラムの受講を通して、中堅期産業保健師の在り方として感じたことや確認したこと

②社会の動きに対応した産業保健師としての戦略的取り組みについて

(コンサルテーションプログラムから得た学びを通して、今後自分が実践していくべき内容や課題を話す)

③自身で取り組みたい、地域でのリーダーシップの発揮と組織を超えたネットワークの作り方進め方について

**平成 23 年度厚生労働省先駆的保健活動交流推進事業  
中堅期保健師コンサルテーションプログラム(産業分野)検討委員会開催状況**

検討会	日時	内容
第 1 回	平成 23 年 7 月 7 日(木) 15:30~17:30	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実施要綱の説明</li> <li>2. 受講者の選考について</li> <li>3. コンサルテーションプログラムの内容と進め方について</li> <li>4. 事前課題・提出物の様式について</li> <li>5. 参考文献について</li> <li>6. コンサルテーションプログラムの定着・普及について</li> <li>7. 評価について</li> </ol>
第 2 回	平成 23 年 8 月 3 日(水) 10:00~12:00	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受講者の最終決定とグループ編成について</li> <li>2. コンサルテーションプログラムの内容について</li> <li>3. 実践事例発表者・グループリーダーについて</li> <li>4. グループワークの進め方について</li> <li>5. 記入シートについて</li> </ol>
第 3 回	平成 23 年 11 月 7 日(月) 15:00~17:00	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前期プログラム実施結果について</li> <li>2. 前期プログラムの評価について</li> <li>3. 後期プログラムの進め方について</li> <li>4. 全体の評価について</li> <li>5. 報告書作成について</li> </ol>
第 4 回	平成 24 年 2 月 16 日(木) 15:00~17:00	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンサルテーションプログラム全体の評価について</li> <li>2. コンサルテーションプログラム事業報告書作成について</li> </ol>

## 平成 23 年度厚生労働省先駆的保健活動交流推進事業

## 保健師活動強化コンサルテーション事業

## 中堅期保健師コンサルテーションプログラム(産業分野)検討委員会

(敬称略)

委員長	畑 中 純 子	四日市看護医療大学看護学部看護学科／准教授
	五十嵐 千 代	東京工科大学医療保健学部／准教授 産業保健実践研究センター長
	齋 藤 明 子	ヘルス&ライフサポートTAK／代表
	椎 葉 倫 代	新日鉄ソリューションズ 株式会社 人事部健康・厚生グループ／シニア・マネージャー
	柴 戸 美 奈	財団法人 福岡県すこやか健康事業団総合健診センター 健診部健診1課／課長
	西 内 千代子	西内ヘルスコンサルティング・オフィス／代表 (日本看護協会 保健師職能委員)
	六 路 恵 子	全国健康保険協会本部保健第二グループ／グループ長
オブザーバー	尾 田 進	厚生労働省健康局総務課保健指導室／室長
	石 原 美 和	厚生労働省健康局総務課保健指導室／室長補佐
	坂 本 善 子	厚生労働省健康局総務課保健指導室
担当理事	井 伊 久美子	公益社団法人 日本看護協会／常任理事
担当部署	和 田 幸 恵	公益社団法人 日本看護協会／事業局長
	村 中 峯 子	公益社団法人 日本看護協会／チーフマネージャー
	塚 尾 晶 子	公益社団法人 日本看護協会／専門職
	亀ヶ谷 律 子	公益社団法人 日本看護協会

**平成 23 年度厚生労働省先駆的保健活動交流推進事業  
保健師活動強化コンサルテーション事業 報告書**

**中堅期保健師コンサルテーションプログラム  
(産業分野)**

---

発行日	2012 年 3 月 31 日
編集	公益社団法人 日本看護協会 事業開発部
発行	公益社団法人 日本看護協会 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-8-2 TEL 03-5778-8831(代表) FAX 03-5778-5601(代表) URL <a href="http://www.nurse.or.jp">http://www.nurse.or.jp</a>

---

※本書からの無断転載を禁ずる

平成23年度 先駆的保健活動交流推進事業

保健師活動強化  
コンサルテーション事業  
報告書

**中堅期保健師  
コンサルテーション  
プログラム(産業分野)**



平成24年3月

公益社団法人 日本看護協会